

万葉集の四季

春の日の光  
あけぼの

万葉集の四季

# 万葉の四季

— 和歌を学び、書を楽しむ —

樋口百合子  
藤田朱雀 / 著



『万葉集』に載る、  
四季を詠った  
50首の和歌の解説と  
書の手引きを  
わかりやすく  
読み解いていく

淡交社

頁を繰るごとに落ち着き穏やかになっていく、  
この気持ちはなんだろう

と不思議になった。もういちど最初の頁に戻ってみたら、わかった。余白だ。美麗な料紙に流れる繊細な仮名は、料紙を埋め尽くすのではなく、ゆったりと空間を占めて実にみごとな余白を生み出している。

見開きの右側には選ばれた和歌に関する関連かつ要を得た解説が記され、左側にその和歌が、溜息の漏れるほど鮮やかに認められて、下には書法についての手引きが付く。

『万葉集』の四季を主題にした本は多くあるが、書の魅力を加味した本は数少ない(本書8頁)。まさにそうだ。書家と万葉研究者のコラボレートがこのような美しくも奥深い書物を世に送り出した。和歌の醸す季節感が筆遣いにあらわれて、左右をあわせ読むと春の心踊りや秋の物思いが直に伝わってくるからすごい。

私は平素漢字のどっしり詰まった『万葉集』を読み、考え、そして学生達に講義しているのだけれど、その前原さ、余裕のなさ、退屈さときたら……

そうか、余白か。それはさっとうとりに通じる。書を学ぶ人、万葉を愛する人に加え、心の静謐を求める人びとにも、本書をぜひ味わっていただきたい。

影山尚之(武庫川女子大学文学部教授)